

平成28年2月15日

「第2回 地域連携の会」

台東区立台東病院・台東区立老人保健施設千束 管理者

山田 隆司



台東区立台東病院・老人保健施設千束が平成21年4月に『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します」を理念に産声を上げてから本年3月末で丸7年が経ちました。現在東京都においても急速な地域の高齢化が進み、われわれ地域医療振興協会が地方で学んできた地域包括ケアの観点が重視されるようになってきました。いかに限られた医療資源の中で地域住民が命を守っていくか、地域住民が不安なく命を全うできるように支えるには、医療サービスだけでなく、福祉や住まいのあり方、地域社会の支え合い等さまざまな知恵が必要となっています。われわれの施設がそういった連携の核となれるようますます精進していきたいと考えています。

また2017年からは新しい専門医制度が始まり、19番目の基本医療領域ということで「総合診療科」という標榜も正式に認められることになりました。地域の中にあり、いろいろな職種、医療資源を最大限活用し、連携機能の要になるのが「かかりつけ医」ないしは「総合診療医」だと考えています。今年6月11・12日には第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会を浅草ビューホテル、浅草公会堂、区民会館及び産業貿易センターにて開催し、その大会長を務めることになりました。大会2日目の12日には浅草公会堂にて区民公開講座「地域を支える医師—総合診療医ってどんなお医者さん?—」も開催されます。区民の皆さんの多数のご来場をお待ちしております。

第7回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 区民公開講座のお知らせ

日時 平成28年6月12日(日)
13:30～15:30 (受付開始・開場 13:00～)

会場 浅草公会堂

テーマ 「地域を支える医師—総合診療医って、どんなお医者さん?—」

基調講演 中村 伸一 | おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長
自治医科大学地域医療学 臨床教授

パネリスト 高久 史麿 | 日本医学会 会長

迫田 朋子 | NHK制作局 文化・福祉番組部
エグゼクティブ・ディレクター

山田 隆司 | 第7回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 大会長
台東区立台東病院・老人保健施設千束 管理者



アクセス

*参加は無料です。参加ご希望の方は、大会ホームページ (<http://www.c-linkage.co.jp/jpca2016/>) からお申し込みいただくか、大会運営事務局(株式会社 コンベンションリンクージ内 ☎03-3263-8688/平日 9:00～17:00) までお問い合わせください。当日申し込みも可能です。

あさがお通信

公益社団法人地域医療振興協会
台東区立台東病院
台東区立老人保健施設千束
2016 APRIL vol.14

台東区立老人保健施設千束の「地域連携」



台東区立老人保健施設千束 施設長 片見 厚夫

介護老人保健施設(老健)は、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士によるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまであわせて提供する施設です。

老健千束は同じ建物内に台東病院を併設しているため、入所者様に合併症や急変が生じた際、病院への移動がしやすく、夜間・休日にも病院当直医の診療が手厚く受けられるという利点があります。さらに台東病院で対応困難な場合は、永寿総合病院、三井記念病院や日本医大等にお願ひし、スムーズな対応をいただいております。このような老健-病院連携のもと、他の老健では困難と思われる医療依存度の高い方の受け入れが可能となり、稼働率も上がっています。

「医療依存度が高ければ在宅復帰は難しいのではないか」と思われるかもしれませんが、ところが実際は在宅復帰率も向上しています。なぜでしょうか?ひとつはリハビリの継続です。たとえば大腿骨頸部骨折術後の方は、入所後のリハビリにより入院期間だけでは達成できなかった目標に届き、在宅復帰が可能となることがあります。また、脳

卒中後やパーキンソン病などで嚥下障害がみられ、誤嚥性肺炎を繰り返す方には、言語聴覚士が介入して看護師、介護士、管理栄養士とともに嚥下訓練を行うことで口からものが食べられるようになり、在宅復帰可能となることもあります。もうひとつは食事療法の徹底です。管理栄養士により、糖尿病の方にはエネルギーコントロール食、高血圧症の方には塩分制限食等のメニューが個別にきめ細かく作られます。これによりインスリン注射からの離脱、降圧剤の減量あるいは休薬が可能となる方もまれではありません。

このように老健千束では職員が一丸となって入所者様の在宅復帰のために努力を続けております。これを支えて下さるのが台東病院や近隣の急性期病院であり、退所された方々を診ていただく医師会の先生、そしてご家族の方々です。老健千束はこの「地域連携」ネットワークを最大限活用し、今後ますます台東区民の皆様のお役に立ちたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年度 開催のご案内 (9月までのスケジュール)

■時間 15:00～16:00 ■場所 台東病院2階会議室

知って得する! 在宅ケア教室

リハビリスタッフが中心となって開催する、患者さんやそのご家族、ケアマネージャー、介護士向けの教室です。

- 5月18日(水) 認知症の理解と対応
- 6月15日(水) オムツ交換のポイント
- 7月20日(水) 自宅で行える予防リハビリ①—膝の痛み予防—
- 8月17日(水) 嚥下障害の理解と対応
- 9月21日(水) 嚥下食の作り方

街かど健康教室

台東病院から、医療に関する情報を区民の皆さんにわかりやすくお伝えする教室です。

- 5月11日(水) 「たばこ」のことをもっと知ろう!
- 7月6日(水) 最新の腰痛対策
- 9月7日(水) 「結核」を知ろう

*開催内容を変更する場合がございます。詳しくはエントランスホールに掲示いたしますので、事前にご確認ください。

第2回 台東区立台東病院 地域連携の会

2月15日浅草ビューホテルにおいて、「第2回台東区立台東病院 地域連携の会」を開催いたしました。今回はその模様を特集します。

本日は地域連携の会の開催本当に有難うございます。今年の4月で7年ということで、台東区の都内で唯一の区立病院として非常に活躍をされてきたことを、会員ともども感謝申し上げます。これからは地域包括ケアということで、医療と介護の連携のためには、われわれかかりつけ医と病院との連携とその拠点が必要になると思います。台東病院は、病床機能としては一般病床40床、回復期40床、療養40床、それに加えて老人保健施設150床という、併設の介護支援事業所、訪問リハビリに加え、昨年には在宅支援療養窓口も開設した、いわゆる地域包括ケアを支えるために必要な機能の多くをもつ病院です。これからの高齢社会を支えるためのすばらしい機能をもっていると思いますので、是非ともまた連携をしてがんばってやっ

ていきたいと思ひます。それから今年台東病院は、電子カルテの整備も進めていただけたということですが、これからは、かかりつけ医が照会先の病院で患者さんがどうなっているのかということが見えるような電子カルテを是非とも導入していただきたいと思ひます。結びにあたりまして、区立台東病院と老人保健施設千束のますますのご発展と皆様方のご活躍を祈念しましてご挨拶とさせていただきます。



浅草医師会 会長
佐々木 聡 先生
ささき眼科
台東区雷門 1-7-5
田原町グリーンハイツ 102

皆様こんばんは。日ごろ台東病院、それから老人保健施設千束には、われわれ下谷医師会の会員が大変お世話になっておりまして、改めて御礼申し上げます。ここ台東病院を作るきっかけとなったのが、病院と老人保健施設を併設した施設を作るということでありまして、現在その連携が非常にうまくいっていることを私は当時の委員として大変うれしく思っております。また今般、総合診療部門、地域リハビリテーション部門についても大変力を入れてその充実を図っているということは、開設時のコンセプトでありますリハビ

療の訪問支援機能、これもしっかりと認識をしていただけてご活躍いただいているということで、大変うれしく思っております。今後ともこの方向で一生懸命にわれわれ地域医療を支えていただきたいと思います。本日はお招きありがとうございました。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。



下谷医師会 会長
安倍 智 先生
安倍医院
台東区竜泉 1-34-1



リテーションの中核の施設であるということ、それから在宅医

台東病院から

杉田 義博 病院長

「病院・老健の取組及び実績報告」

この1年間の取組みをふまえて、われわれは今後在宅サービス部門を強化していきたいと考えております。これからも台東区の高齢者医療の中核となるべく活動して参りますので、よろしくお願ひいたします。

リハビリテーション室課長
江藤 啓介 理学療法士

「積極的な地域貢献を行います」

当院の訪問リハビリテーションは、退院患者さんを中心に月に200件程行っております。患者さんは大抵、入院中と自宅での生活の違いに戸惑い、外出を控えるようになってしまいます。そこで入院中の患者さんを知っているスタッフが

自宅に伺い、生活の中で実際に困っていることを解決することが訪問リハの目的です。

患者さんは自宅で安心して暮らせる生活を取り戻した後、訪問リハを終了した多くの場合はデイケアなどに移行します。そのため訪問リハでは生活の向上に主眼を置いた目標を設定することが大切であり、マッサージだけで生活は向上しないことがおわかりいただけたと思ひます。

更に当院では平成28年4月から言語聴覚士を訪問リハに配置します。嚥下障害や失語症の支援を中心に、区民の在宅生活を支えるお手伝いをさせていただきます。今後もリハビリテーション室では「知って得する！在宅ケア教室」や訪問リハ、通所リハなどを通じ、区の方々の役に立てるよう、積極的に活動していきたいと思ひます。

台東区から

健康部
清古 愛弓 部長

台東区の健康部長をしております清古と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は区立台東病院の地域連携の会にたくさんの皆様方にご参加いただきまして有難うございます。

昨年2月には、区が病院の2階に台東区在宅療養支援窓口を開設しました。例えば近隣の大きな病院に急に入院して退院するときになかなかすぐ家には帰れない、そういうときに相談を受け付ける区の最初の窓口になるというものでございます。地域の社会資源ですとか仕組みをそこでお話したり、地域のかかりつけの先生をご紹介したり、いろいろな機能を用意しておりますので、是非とも利用していただきたいと思ひます。本日は貴重な機会ですのでいろいろなお意見を伺いたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。